別紙２

第 10 期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案
シンポジウム及びパブリックコメントの実施結果（速報）について

１　シンポジウム実施結果概要

（１）テ ー マ

さらなる超高齢社会に向けて、必要なこと

（２）日 時 等

令和８年９月４日（金）　午後６時 30 分から午後８時 30 分

会場　玉川せせらぎホール（世田谷区等々力３－４－１）

（３）参加者数

約 70 名

（４）内　　容

第１部　第 10 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案の概要説明

基調講演「さらなる超高齢社会を見据え、世田谷区に求められるもの」

講　演：中村　秀一氏（世田谷区地域保健福祉審議会会長）

第２部　KAiGOPRiDE@SETAGAYA2026　動画上映

第３部　パネルディスカッション「さらなる超高齢社会に向けて、必要なこと」

＜コーディネーター＞

中村　秀一氏（同）

＜パネリスト＞

山口　潔氏	（ふくろうクリニック等々力・自由が丘理事長/医師）
篠﨑　広一氏	（代沢あんしんすこやかセンター管理者）
村田　みつ代氏	（社会福祉協議会権利擁護支援課係長）
保坂　展人	（世田谷区長）

※下線は高齢者福祉・介護保険部会委員

（５）資料等の公開

使用した資料等は以下リンク先の区ホームページからご覧いただけます。

<https://www.city.setagaya.lg.jp/02082/33517.html>（ページ ID：33517）

＜シンポジウムの様子＞





２　パブリックコメントの実施結果（速報）

（１）意見募集期間

令和８年９月８日（火）～９月 29 日（火）まで

（２）意見提出人数

意見提出者 57 人　意見件数 116 件

※シンポジウムアンケート提出者 12 人、19 件含む。

（３）意見内訳と主な意見

＜意見内訳＞

項　　目	件数
計画の基本的な考え方	２３
計画目標Ⅰ　区民の健康寿命を延ばす	7
計画目標Ⅱ　高齢者がより活躍できる地域づくり	１２
計画目標Ⅲ　安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉サービスの確保を図る	３２
認知症施策の総合的な推進	5
介護保険制度の円滑な運営	１２
介護施設等整備計画	7
その他	１８
合計	１１６

＜主な意見＞

別紙のとおり。

※速報については、区民等からの意見に対する回答の作成に向け、現在精査中であり、件数や分類、意見概要等については、今後変わることがあります。

別　紙

第 10 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）
パブリックコメント　主な意見の概要（速報）

計画の基本的な考え方　　２３件

番号	意　見　概　要
1	「高齢者」への理解を深めるため、小中学校の授業で積極的に学ぶ機会を設けてほしい。
2	高齢者は、健康で思考力のある人から意思表示が難しい人まで状態が多様であり、一括りにせず、それぞれの状況に応じた施策が必要である。計画案が元気な高齢者の活躍を促していることは分かった。
3	区・あんしんすこやかセンター・民間事業者の財源と人員には限界があり、対応や公費支援を制限・断念せざるを得ない場合があることを計画に明記してほしい。

計画目標Ⅰ　区民の健康寿命を延ばす　　７件

番号	意　見　概　要
1	健康寿命の延伸に向けた取組を重視し、介護人材不足の緩和にもつなげることが重要である。
2	食事は健康長寿にはとても重要である。NPO などが作る定食が割安で食べられたらありがたい。ぜひ栄養たっぷりの和食を出すシニア食堂の運営を区で推進しほしい。
3	65 歳健康寿命（要介護２）を指標にしているが、これはなるべく介護を受けずに生活してほしいと言われているように受け止めてしまう。自分のように以前から身体的障害を受けているものにとっては、冷たいイメージだ。病気がうまく治らなかったために、就労、社会参加を希望している人もいるし、家の中で家事を自分のペースで１日を終えたい方もいる。みんな一緒にしないでほしい。

計画目標Ⅱ　高齢者がより活躍できる地域づくり　　１２件

番号	意　見　概　要
1	若い世代も含め、高齢者との関わりが少なくなってきている気がする。介護保険の利用有無にかかわらず、高齢者の栄養状態や孤立を把握し、見守り体制を充実させてほしい。
2	高齢者とその他の世代を合わせたコミュニティ作りを検討してほしい。
3	ひとり暮らしの高齢者を見守れる介護体制の充実を検討してほしい。

計画目標Ⅲ　安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉サービスの確保を図る　　３２件

番号	意　見　概　要
1	一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加に対応し、介護保険外の終活支援や生活全般の支援を、区が重点的かつ主体的に進めてほしい。
2	親を見送った経験から、骨折などの治療自体は終わっても、入院や点滴、リハビ

	リの過程で高齢者の身体が衰え、以前の生活に戻れなくなる場合があると感じた。その中で、「治すための医療」と「最期を穏やかに過ごすためのケア」は異なるものであり、回復を目的とした医療が必ずしも本人の苦痛軽減につながるとは限らないと思う。 現在は、自宅での看取りが難しい場合、病院に頼らざるを得ない一方で、介護施設もすべてが看取りに対応できるわけではなく、がん患者向けのホスピスにも該当しない高齢者の受け皿が必要ではないかと思う。 そのため、区では介護施設の看取り体制の拡充や、積極的治療を必要としない高齢者を受け入れる施設の整備、点滴などの医療行為を本人の状態や意思に応じて必要最小限にしながら苦痛を和らげる「高齢者が自然な形で最期を迎えるための場所」の整備をしてほしい。世田谷区の計画の中には、「高齢者の看取りのための新しい受け皿」を位置づけ、具体的な整備をしてほしい。
3	外国人の採用にあたっては、人材選定、教育、通訳等も含めて慎重に進めてほしい。

認知症施策の総合的な推進　　５件

番号	意　見　概　要
1	認知症を重点的に取り上げる趣旨は、85 歳以降の割合が高い。そこで、希望条例により希望計画により進めるお話があり期待します。一方で治療や予防薬が開発されケアが大きく変わる。区としての取り組みを明確にすべき。
2	65 歳以上の区民が年 1 回無料で認知症の早期発見検査を受けられる体制を整備し、精密検査費用も助成して、早期発見・治療と認知症への理解促進につなげてほしい。
3	若年性認知症は高齢者の認知症とは進行や直面する課題が異なるため、区別して施策を講じてほしい。本人の状態に応じて活動・交流・社会参加ができ、安心して過ごせる若年性認知症専門のデイサービスを、既存施設の活用も含めて整備してほしい。また、当事者や家族が、就労、利用可能な制度、税・社会保険、障害年金等について専門知識を持つ若年性認知症支援コーディネーターのような人に相談できる窓口を設置してほしい。

介護保険制度の円滑な運営　　１２件

番号	意　見　概　要
1	将来の居宅介護ニーズを見据え、必要な介護サービス量と介護人材数を推計した上で計画する必要がある。
2	福祉サービス従事者が生涯の仕事として誇りを持って働けるよう、適正な給与・待遇と明確なキャリアパスを整備し、社会全体の福祉への認識を改める必要がある。
3	介護保険料の上昇抑制は評価するが、現役世代に負担が偏る社会保障の仕組みを抜本的に見直してほしい。現役世代は所得、高齢世代は保有資産を基礎に負担す

	ることで、資産形成に成功した高齢者も同世代の福祉を支え、世代間の負担の不均衡を是正する仕組みを検討してほしい。

介護施設等整備計画　　７件

番号	意　見　概　要
1	生産活動に従事し納税を担う現役世代が、介護のために就労を断念する「介護離職」は、区内経済および社会保障の支え手を奪う致命的な損失である。 稼ぎ手を介護から完全に切り離し、職場での生産活動に専念させることこそが、経済合理性にかなった施策です。非効率な個別在宅支援を美化するのをやめ、特別養護老人ホーム等の入所施設による「集約的管理」を拡充し、家族の就労継続を最優先で担保してほしい。
2	公募しても開設に至らない定期巡回・随時対応型訪問介護看護、認知症グループホーム、都市型軽費老人ホームや、定員割れがある小規模多機能型居宅介護について、補助金による整備誘導や新規整備目標を凍結・縮小し、利用・整備実績に即した計画に見直してほしい。
3	特別養護老人ホームの待機期間が短縮していることも踏まえ、新たな施設建設に固執せず、23 区最多である区内の民間介護付き有料老人ホーム等を重度者の受け皿として有効活用してほしい。

その他　　１８件

番号	意　見　概　要
1	高齢者や免許返納者の買物・通院等の移動手段を確保し、閉じこもりを防ぐため、減便された祖師谷・成城地域循環バス「せたがやくるりん」の従来ダイヤを回復してほしい。そのため、シルバーパス料金の引上げや、運行空白時間帯は通常運賃を支払う方式など、受益者負担を増やして運行会社の採算と運転士の賃金・確保につなげる方策を検討してほしい。
2	高齢者のなかには区の様々な支援を受けられることを知らない人がかなりいるので、さらに区の広報を充実してほしい。
3	足が悪くて 10 分続けてあることが難しい。休憩したいがベンチがなくて困っている。駅、郵便局、図書館周辺やスーパーにもベンチがあると助かる。